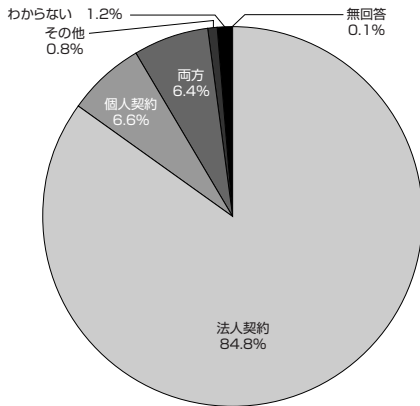
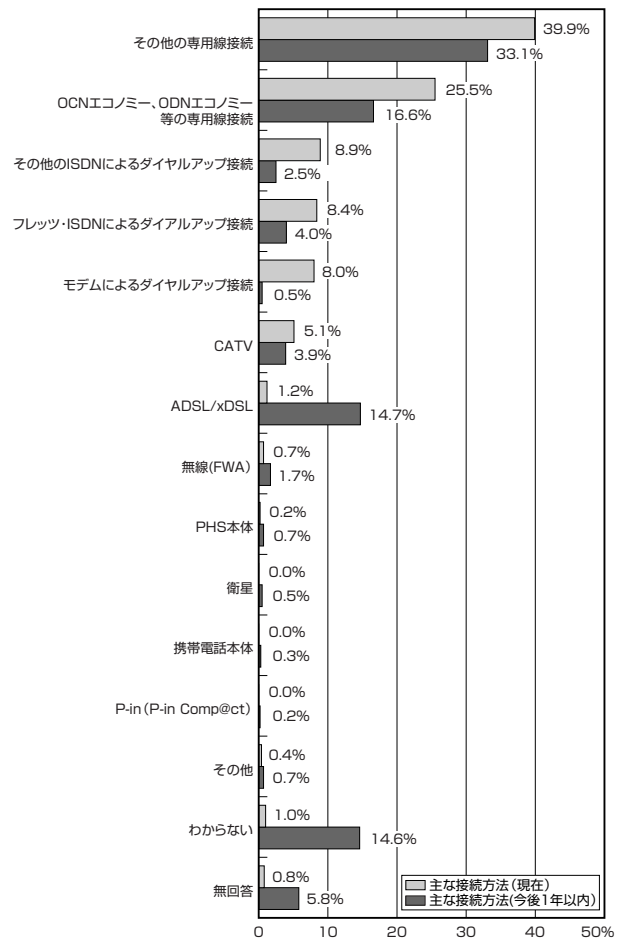


資料1-4-16 プロバイダーとの契約形態 N=1,662



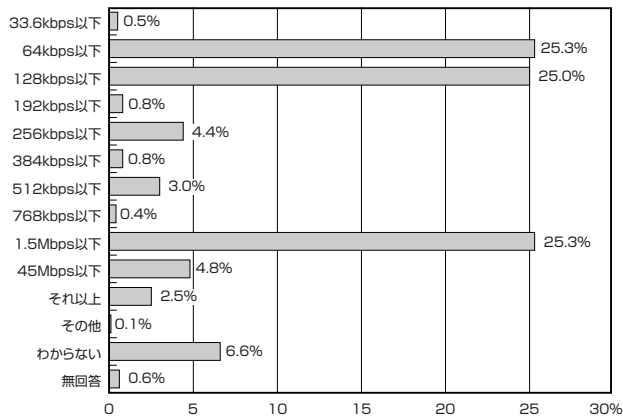
インターネット白書2001 ©インプレス, Access Media International,2001

資料1-4-17 主な接続方法(現在/今後1年以内の予定) N=1,662



インターネット白書2001 ©インプレス, Access Media International,2001

資料1-4-18 プロバイダーとの主な最大通信速度 N=1,662



インターネット白書2001 ©インプレス, Access Media International,2001

解説

るが、「個人契約」、「両方」もそれぞれ6.6%、6.4%であった。

主な接続方法に関して、現在の接続方法と今後1年以内の予定を聞いたのが資料1-4-17である。企業の場合、当然ながら複数の接続方法が考えられるが、ここでは主要な接続方法1つについて聞いている。専用線とダイヤルアップとの比較では、調査開始以来、毎年ダイヤルアップが減少し、専用線接続にシフトしている。今年はダイヤルアップが25.7%、それ以外が74.3%となった。さらに、専用線の中でも昨年と比べると「CATV」や

「ADSL/xDSL」がそれぞれ0.8%から5.1%、0.1%から1.2%と急増している。この状況は個人のインターネット利用者と同様の傾向である。

今後、さらにダイヤルアップは減少し、専用線などによる常時接続へのシフトはますます加速すると予測されるが、企業利用者においても「今後1年以内」という短期的には、「その他の専用線」「OCN、ODNエコノミー等の専用線接続」「ADSL/xDSL」の意向は強いものの、ダイヤルアップが完全になくなるとは考えにくい。

昨年に引き続き、通信速度は「64kbps」(25.3%)、「128kbps」(25.0%)が主流であることに変わりはないが、その比率は減少傾向で「1.5Mbps以下」が25.3%と上位に迫り、接続方法でもみたように、専用線による高速回線が主流となりつつある。従業員規模別でみると、特に500人以上で「T1(1.5Mbps)以下」「45Mbps以下」「それ以上」の高速接続を行っている企業が多くみられるのが特徴である。

(矢野さよみ アクセスメディアインターナショナル株式会社)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp